



——第4回 肥料の種類と夏の水やり——2016.7.31

お勧めは粒状の鶏ふん

一般に市販されているものに化成肥料・鶏ふん・牛ふん・油粕などがあります。

生け垣の肥料としては鶏ふん(粒状のもの)をお勧めします。におい対策をすれば、一番効果的な肥料と思います。(穴に埋め込みます)

元肥—植える前に、植える場所にあらかじめ施すものです。

追肥—植えた後、根元から離れたところに施すものです。生け垣の場合は穴を掘り腐葉土と一緒に埋め込みます。ツツジ・サツキ等の低木は化成肥料を1～2握り(1平方メートルあたり)根元にばらまく程度でいいでしょう。

寒肥—冬の寒い時期の1月～2月に与える肥料のことです。

日照り続き…春植えの木は要注意

俗に「水やり3年」といいますが、これは鉢花・盆栽などすぐに水が切れてしまう鉢物への水やりの難しさを言ったものです。生け垣の木の場合は土さえよければ、(土については別途説明)それほど気を使うことはありません。

しかし、新しく植えた後の水やりは、新しい根が出て完全に活着するまでは半年から1年はかかり、特に春植えた場合は夏を迎えるので、注意が必要です。夏に長い干天が続く場合は、1日2日でなく、次に雨が降るまで根気よく、水やりを続けなければなりません。雨上がり後は、土の表面が乾いてきたら水やりを始めてください。打ち水程度では水分補給には役に立ちません。

生け垣の木に水を補給したい場合は、朝か夕方に水道のホースを庭に引き込み、水を出し放しにしながら十分地中にしみ込ませます。

新しく植えた木は一旦活着してしまえば、大丈夫です。

~~ワンポイントアドバイス~~

ミントは、生け垣の傍に植えてはいけません

ハーブのミントは繁殖力が雑草より強く一度繁ってしまうともう手が付けられません。生け垣の傍に植えてはいけません。根が張って繁殖するし、種でも繁殖します。唯一の駆除方法は土ごと根こそぎ引き抜くことになります。鉢かプランターでの栽培がよいでしょう。

※参考資料は「造園施工必携」・「緑化管理者養成講座」